

お菓子のふるさと但馬



知って
納得!

お菓子とまちづくりの
おいしい関係

まるわかり

BOOK

Contents

田道間守って? —————	2
中嶋神社とは —————	3
お菓子で但馬を盛りあげる人たち ———	4・5
但馬 お菓子の思い出 —————	6
但馬のお菓子文化 —————	7
「お菓子のふるさと但馬」の情報発信・PR —	8

田道間守のみ

たじまもり

遠いむかし(西暦六十年頃)、タジマモリは第十一代垂仁天皇の命をうけ、遠い海の向こう「常世(とこよ)の国」にあるという「非時香菓(ときじくのかぐのこのみ)を探す旅に出ました。「非時香菓」とは一年中実り、芳香を放つ果実の意味で、今の「橘(たちばな)」と言われています。「橘」とはミカンの原種です。当時、日本に「非時香菓」はなく、不老不死の霊菓であると考えられていました。

タジマモリは幾多の困難を乗り越え、十年の歳月をかけてやっと「非時香菓」を見つけました。大喜びで非時香菓を持ち帰りましたが、その一年ほど前に天皇は亡くなっておりました。持ち帰った非時香菓の半分は皇太后に献上され、残りの半分を天皇のお墓に植えた後、タジマモリは悲しみのあまり亡くなったと伝えられています。



昔、果物は「果子・かし」と呼ばれており、タジマモリが持ち帰った橘は果子の最上級品とされていたことから、タジマモリはお菓子の神様(菓祖)として崇敬されています。

但馬は、お菓子の神様をまつる神社の総本社・中嶋神社(豊岡市)があることから「日本のお菓子のふるさと」といわれています。但馬国・豊岡に伝わるお菓子の神話を紹介します。



たじまもり 田道間守 物語



中嶋神社とは

なかしま

お菓子の神様「田道間守命」をまつる総本社

菓祖、田道間守命(たじまもりのみこと)がまつられている中嶋神社。7世紀後半、推古天皇の時代に建てられたとされる、由緒ある神社です。田道間守は出石神社の祭神である天日槍(あめのひばこ)の子孫、三宅連(みやけのむらじ)らの祖先とされています。

中嶋神社は全国の菓子の総本社として崇敬を受け、日本各地に分社があります。



中嶋神社の社名の由来

なぜ、中嶋神社と呼ばれるようになったのか?それは田道間守のお墓の場所が由来しています。奈良県奈良市にある垂仁天皇陵の堀に浮かぶ小さな島は、田道間守の墓と伝えられています。その寄り添うように浮かぶ島は、垂仁天皇に忠節を尽くした田道間守の姿をあらわすかのようです。

「菓子祭」に参拝してみよう!

毎年4月の第3日曜日に開催される「菓子祭」は、菓祖、田道間守命の命日に合わせて開催されています。毎年、全国の菓子業者が菓子業界の発展を祈願する他、多くの参拝者で賑わいます。皆さんもよく知っている日本を代表する菓子メーカーもお菓子を奉納していますよ。また、地元の豊岡市立神美小学校児童による文部省唱歌「田道間守」の奉納も行われます。



* お菓子を但馬を盛り上げる人たち *

豊岡商工会議所

* 菓子祭前日祭 *

田道間守命(たじまもりのみこと)の命日に近い、4月の第3日曜日。中嶋神社では、毎年菓子祭例大祭が開催されます。その前日に豊岡市内中心市街地で開催されるのが「菓子祭前日祭」です。今でこそ多くの来場者で賑わう大人気イベントですが、開始当初は葛藤と挑戦がありました。

★

第1回前日祭が行われた2011年のこと。地元商店街関係者や菓子店店主などが中心となり、実行委員会が構成されました。

「お菓子の神様である田道間守命をまつ中嶋神社は、豊岡に総本社があります。この貴重な観光資源をなんとか活かしたい、その思いで人が集まりました」と前日祭の事務局を務める豊岡商工会議所の担当者は教えてくれました。

★

当時、本当にお菓子を人と呼べるのかといった意見や、菓子店が屋外イベントに出店するのかといった不安もあったそうです。しかし結果は大成功！30以上の出店と、予想を上回る1万5千人以上を集客する大成功を収めました。出店者からも「お客さんとの距離が近い」と好評で、リピーターとして毎年参加してくれている菓子店も増えています。

近年では遠方の愛媛県や三重県の有名菓子メーカーが出店するなど、地域を超えてお菓子の輪が広がっています。2016年には、地域イベントのさらなる発展を応援する「ふるさとイベント大賞」優秀賞に選ばれました。

これからの「菓子祭前日祭」

年々高まる盛り上がりや笑顔をこぼす担当者が「こちらはあくまで“前日祭”です」と表情を引き締めました。

「お菓子を売るだけのイベントではなく、地域があってこそのお祭りです。中嶋神社の由来、そして豊岡の歴史や魅力を知ること、地域のアイデンティティを高めていきたいですね。これからも中心市街地活性化にも資するイベントとして、支えていきたいです」

多種多様なスイーツが集まり、全国からも注目を集めるお菓子の祭典。ぜひ足を運んでみてください。



タジマモリあげ隊

* スイーツ高校生バトル *

タジマモリあげ隊は、お菓子の力で但馬を元気にしようと活動しているグループです。平成24年～29年度には、住民らが自主的に但馬の活性化に取り組む「但馬夢テーブル委員会」のグループとして活動していました。

6年間の任期の間に、お菓子のルーツを紹介する紙芝居を作成した他、あったらいいなと思うお菓子を形にするコンテスト「夢をお菓子(かたち)に！TAJIMA スイーツドラフト会議」や、「TAJIMA スイーツ高校生バトル」を開催し、但馬の小・中・高校生を巻き込んで大きな盛り上がりを見せました。

★

「但馬だけでなく県大会にするのが目標の一つでもあった」という代表の太田博章さん。平成30年と令和元年の秋には募集エリアを但馬外にも広げ、大会を開催しました。

★

「スイーツ高校生バトル」は、書類選考を勝ち抜いたチームが、「但馬まるごと感動市」のステージで開催される決勝戦へと進みます。結果は審査員による実食とステージパフォーマンスとの総合評価で決まります。審査員には専門家も参加しており、本格的な審査が行われます。

★

当日は高校生が作ったとは思えないほどレベルの高いお菓子がズラリ。スイーツバトルでは、大量生産する「商品」ではなく、一品入魂の「作品」を作るため、味や見た目をはじめコンセプトなど大変思いの詰まったお菓子になります。伝えたい思いが強すぎて、味とのバランスが悪くなったり、逆に味と見た目を重視しすぎて作品としてのアピールが弱かったりと、なかなか難しい面もあるようです。

★

「どの審査員さんもおっしゃるのが、回を追うごとにレベルが上がっていったということ。すべての高校生に言えるのですが、自分たちが住んでいる地域のいいところをもっと多くの方に知って欲しい、という考えをもっては本当に素晴らしいことです。お菓子はみんなを笑顔にするということを、強く感じました」と太田さん。高校生の熱い思いがあふれた素晴らしい大会が実現できました。



但馬 お菓子の 思い出

「お菓子のふるさと但馬」を広くアピールするために、
但馬での身近なお菓子の思い出を募集したところ、
県内外からたくさんの印象的なエピソードが届きました。
あなたの好きなお菓子はありますか？

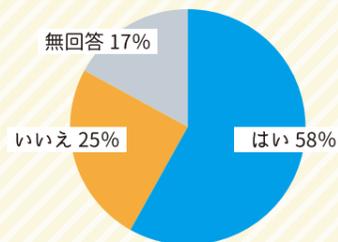
思い出エピソードが多かったお菓子は？



アンケート「お菓子の神様が但馬にまつられていることを知っていますか？」

結果紹介

回答者 114名



エピソード紹介

30代：ゆみ

養父出身の夫の実家に初めて行った時だ。月経困難症を患っていた私はそこで子どもに恵まれなことを告げようとしていた。

しかし涙があふれてうまく話せない私にご両親は「もういいから。ほら泣かないで、笑って笑って。これでも食べて、ね」と「メシテラ」（カタシマ）を差し出した。皆で食べた「メシテラ」は美味しかった。だけど両親の気遣いはもっと嬉しかった。

その2ヶ月後、奇跡的に妊娠。あとで聞けば「メシテラ」はコウノトリを育む粉でできてるとか。私にとってのコウノトリは「メシテラ」を差し出したお義母様であった。



10代以下：お菓子の神様

僕は祖母とよく食べたのが「今川焼」（谷口今川焼店）だった。幼い頃から母がいない僕は祖母が母のような存在だった。

その中で本当に思い出に残っているのは祖母と手をつないで「今川焼」を買いに行き祖母と祖父と食べたそんなワンシーンだ。本当に温かかった。人のぬくもりを感じた。それが救いだったのかもしれない。

「今川焼」。考え方によればただのお菓子。しかし人によれば人と人をつないだり、ぬくもりをくれるそんなお菓子なのだと思います。



50代：ゆきりん

彼氏が帰省するたびに「はい、お土産」と持ってきてくれたのは、「鮎のささやき」（谷常製菓）でした。箱を開けると立派な鮎が一匹ずつ袋に入って並んでいます。家族と一緒に「美味しいお菓子だね」とありがたく食べていました。

そんな彼と結婚して但馬に来た私は、谷常さんに並ぶキラキラしたお菓子を目を奪われながらも、「鮎のささやき」を見つけて「ああ、このお店にいたんだね」と懐かしく、嬉しくなりました。

今ではいつでも食べられるようになりましたが、当時は彼だけが持ってきてくれる特別なお菓子でした。私にとって大切な、思い出のお菓子です。



10代以下：みほ

中学2年生の時に、一週間アメリカにホームステイをしたとき母親がキャリーバッグに「朝日あげ」（播磨屋本店）を入れてくれていて、アメリカで一人寂しくなっても「朝日あげ」を食べて頑張ろうと思えた思い出の味です。

高校生になり今は寮生になり親の元を離れています。帰省したときには必ずとっていいほど「朝日あげ」が机の上に置いてあって、「朝日あげ」を食べると家に帰ってきたなという気持ちになるので、中学生から高校生になった今も好きな思い出の味です。



60代：男性

但馬の地を離れてもう半世紀。小生、当時は豊岡市の千代田町に住んでおりましたが、地藏盆のお祭りがあり、お地藏様に香花や大量のお菓子をお供えした後で、そのお菓子が参加した子ども達に分配していただけたという風習でした。一斗缶に入れられた煎餅菓子で砂糖がけのもの、生姜味、青海苔味といろいろな種類がありました。

昨今あのお菓子を目にする事もなくなりましたが、忘れ得ぬお菓子です。又、御近所に婚礼があると、近隣の子供達にお菓子が配られるという風習もありました。「お嫁さんのお菓子」と言って喜んで食べましたが、そのお菓子もやはり地藏盆と同様に例の一斗缶入りのお菓子でした。おいしかったです。古き良き時代の但馬の懐かしい思い出です。



但馬のお菓子文化

お嫁さんのお菓子

新婦の出立時、道中、婚家に到着時にお菓子をまく、但馬に現在も残る珍しい風習です。結婚式の引き出物のように縁者だけではなく、ただ通りすがったただけの人にもお菓子をまいて振る舞います。

由来の一つとして、嫁入りを円滑に行なうため祝儀代わりに振る舞われたものとも言われています。



第6期～第8期但馬夢テーブル委員会
「タジマモリあげ隊」が作った
お菓子のルーツの紙芝居をDVD化しました。
Youtubeでも配信しています。

紙芝居、DVDともに
貸し出しできます！
詳しくは、下記連絡先まで
お問い合わせください。

夢但馬HPにて、但馬のお菓子の歴史や文化、
団体の取り組みを発信しています。



たちばなくんの活用

「たちばなくん」は、橘の実をモチーフにお菓子の神様、田道間守命のイメージを融合させ、子どもから大人まで親しみを持っていただくと共に、歴史や風格を感じられるキャラクターです。

この「たちばなくん」によって、「お菓子＝但馬の財産」そして「但馬＝日本のお菓子のふるさと」が浸透し定着し、誰からも愛されるお菓子のように、誰からも愛される「たちばなくん」になってくれる事を切に願います。



今までの取り組み

お菓子列車の運行(平成30年11月10日)

一日限定の列車ツアーを企画。参加者へ向けて、但馬のスイーツの魅力と、但馬がお菓子のふるさとであることをPRしました！

「但馬 お菓子の思い出」の募集、公表(令和元年度)

「みんなと共有したい、美味しいお菓子の思い出」をテーマに、但馬のお菓子にまつわる思い出やエピソードを集めました！

問い合わせ先

但馬県民局 地域政策室 協働推進課 (夢但馬・ビジョン担当)
〒668-0025 兵庫県豊岡市幸町 7-11
TEL.0796-26-3647 FAX.0796-23-1476

02 但馬@2-005A4